もし俺がSAOにいたら

れぐるぐる

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

オリ主として自分がＳＡＯ世界に行っちゃいます

都合の悪いフラグはへし折っていくワイ、それに構わず無双しハーレムを築くキリト・・・

ある意味チートなふたりが織り成す原作崩壊はちゃめちゃＳＡＯライフ！

目次

ほんへのおまけ
甘くなりすぎた…（ほんへおまけ）
1
プロローグ
プロローグ ―――― 5
1章　妥当！居るファン愚雑魚ボルト労働
色々予想以上だった… ―――― 8
うるさすぎる門出 ―――― 12
騒がしすぎるレベリング ―――― 16
中身が薄すぎる攻略会議 ―――― 21

ほんへのおまけ
甘くなりすぎた・・・（ほんへおまけ）

前回までの血筋・・・ その血の記憶
オレハニンゲンヲヤメルゾ・・・ キリトォ！
内なる闘争心が燃え滾ったロリコンとスケベ
←
殺意を覚えるロリコンとスケベ
←
内なる本能が暴走し、萌え滾ったロリコン
ほんへ・・・ のおまけ
れぐる「じゃあ、チーム［シリカちゃんを守り隊］、頑張るｚ「一人でやってろロリコン」ドゴッアベシ！」
キリト「ったく・・・ こんなやつ放っておいてっと・・・・ ２人とも、いよいよボス戦だ。このロリコンを反面教師にして、気を引き締めて勝とう。俺はパーティーメンバーを「死なせたりしない」・・・ マジでいい加減にしろよ？」

れぐる「抑えて抑えて！お願いその殺気閉まって！言いたかっただけだから！ごめんね!?」

キリト「つたく…　じゃあまず、いるファング雑魚ボルト労働についての…　ん？いるファング雑魚ボルト労働いるファング雑魚ボルト労働…　おい筆者、変換がおかしいことｎ「おいバカメタ発言はやめろ！それもうｎ番煎じかわからんから！」…　言ってみたかっただけですぅ」

れぐる「ちゃっかり真似すんなエロリト！」

エロリト「あぁ…　？いるファング雑魚ボルト労働を倒す前にお前の息の根を止めるぞロリる」

ロリる「おうおうおうおうおうおう…　？ここでやろうってのかキリノジ…」

キリノジ「そっちこそやろうってのか？れぐる痔…「地味に俺をｄｉｓるな！傷つくから！豆腐メンタルにヒビｇ「本当に黙ってくれ」

れぐる「はぁ？」ジリジリ

キリト「あぁ？」ジリジリ

ヤンノカコノシシュンキアァン!?

ンダトコノヤロアァン!?

シリカ「なんていうかその…　入る隙がないですね、アスナさん…」

アスナ「そ、そうね…　なんだか悩んでいた自分が恥ずかしくなってきた…　それよりシリカちゃん、一緒にお昼にしない？サンドイッチ作ってきたの」

シリカ「いいんですか!?ぜひぜひ！ぜひそうしましょ「アスナの飯…　だと…　!?それもサンドイッチ…　！」ピクッ…　えーと…　キリトさん？」

キリト「アスナ！俺にも１０個！くれ！」

アスナ「騒がしい人にあげるご飯はありません。あっそうだ。れぐるくんにもあげないから」

れぐる「そんなぁ…　そんなのってあんまりだぜ…　昼抜きは辛いなぁ…「あっあの、れぐるさん」…　んー？どしたの大天ｓゲフンゲフン、シリカちゃん」

シリカ「あの…　私、れぐるさんのためにご飯を作ってきたんですよ…　そ、その…ふたりで一緒に食べませんか…　？／／／」

れぐる「君の膵臓をたべたい」

シリカ「もうっ…　れぐるさんったら…　／／／」

れぐる「うへへへへへｗｗｗシリカちゃんかわゆすｗｗｗっべぇまじっべぇ結婚しよ？」

キリト「…　なんだあれ…　はぁ…　アスｎ「ね、ねぇ、キリトくん…　私にはその…いって…　くれないの…　？ウワメヅカイ」っぐ…　あのアスナさん？」

アスナ「キリトくん…」ジー
キリト「あ、あぁ…　アスナ…　その…　俺に毎日、味噌汁作ってくれ…　／／」
アスナ「!!は、はい！不束者ですがその…　よろしくお願いします／／／」
シリカ「れぐるさ～ん／／／」スリスリ
れぐる「あのー、シリカさん？ハラスメント警告がその…　おーい？シリカさーん??」
キリト「アスナ…」
アスナ「キリトくん…　／／／」
ディアベル「君たち…　あー…　うーん…　今日はやめとこう、うん。また後日作戦を…　皆…　？」
解放隊の皆さん「「リア充は…　しね！」」

プロローグ
プロローグ

「相変わらず・・・　俺の部屋は殺風景なままだな」

つい俺は、俺以外誰もいない部屋で1人、ため息を交えながらそんなくだらない独り言をこぼしていた。

俺の名前は菊池　蓮。都内の中学校で一般的な高校生活を送っている男子中学生だ。

・・・　正確にはもう男子中学生では無い・・・　か。２年前の２０２２年、俺は、今では日本を揺るがした”過去”の大事件となったＳＡＯ事件の生き残り《詳しく言うとＳＡＯサバイバー》である。

高校受験を間近に控えていた俺は、内申、模試、偏差値のどれもが上々であり、また志望校は定員割れと、少し心に余裕が出来ている状態だったので、息抜き程度にならと、両親２人を説得し、ＳＡＯを入手することができ・・・　後のＳＡＯ事件に巻き込まれることとなったのだ。

「今振り返ってみると、俺は貴重な経験がができたのかもしれねぇな・・・　全力で、そして命懸けで生きて生きて生きて・・・　そして戦い続けて。何に対しても不信感を抱くだけ

だった俺には本当に刺激的だったな…　言っちゃ悪いかもしれないが、茅場には本当に感謝しないとな…」

　変わらず無音な空間で、変わらず俺は独り言を呟き続ける。

「でもな…　またお前を被る時が来るかもしれないって心のどこかが考えちまうんだよな…　いや…　来るかもしれないじゃなくて、来て欲しいが正解かもな…　その時はまた、よろしく頼むぜ、相棒」

　そして俺は、酷くボロボロになってしまったヘルメット型フルダイブマシン…　ナーヴギアに手を掛けた。

「んじゃ、そろそろ俺達の長く苦しかった冒険の話…　始めようか」

　今から俺が語るのは俺が経験し、感じてきたバーチャル世界の2年間の記憶である。

　他愛ない話、二番煎じかもしれないが…　あなた達の期待を削がないよう、精一杯努力していくことを誓おう。

　それでは、昔話を始めていこうk

「ちょっとれぐるさん!?さっきから何ボソボソ呟いてるんですか！早く開けてくださーい！デートの時間が無くなっちゃいますよ!?」

　…　なんでこいつはいつもいつも…

「なんでお前うちにいるんだよ…　あと俺はお前と付き合っていないしデートなんてし

ない。そんな約束もしてないし興味ないから回れ右して帰って、どうぞ。俺はたしかに低身長好きだけどな、お前みたいな幼児には興味が・・・」
「幼児じゃないですよ！しかも、年齢あんまり変わらないじゃないですか！駄々こねてないで、行きますよ！」
　あれぇ・・・　聞く耳もってくれないなぁ・・・　ワイ、まじで困るンゴｗｗｗ」
「あの・・・　れぐるさん、声に出ちゃってますよ・・・　その癖と口癖、直したほうがいいと思います」
「お前みたいな幼児にとやかく言われたかない。とっとと帰れ！」
「嫌です！無理矢理にでも居座っちゃいますよ！今日こそはデートをしてもらいますからね！」
「嫌だ！俺はＳＡＯで一生分働いたしリハビリで体力失った！あぁもうダメだァおしまいだァ・・・」
「ムカッ・・・　そうですか分かりましたよ。それなら私にも手があります。おーい燐ちゃー「おっまそれは卑怯！はいはいわかったわかった！行く、行くから！」
「ふふ、話がわかる人は好きですよ？れぐるさん。それでは行きましょう！」
「へいへい・・・」
　えー・・・　おほん、というわけでＳＡＯ、振り返っていきますよ～・・・

1章　妥当！居るファン愚雑魚ボルト労働

色々予想以上だった・・・

ー2年前ー

「よしっ・・・　やっと手に入れたぞナーヴギア・・・　！」

これで原作では死んだあいつを・・・　はっ、いかんいかん。あっどうも、蓮です。

えーはい、皆さんなんとなく察してると思いますが、実は俺、この世界の住人じゃないんですよね。起きたらここにいたって言うかなんて言うか・・・　とりあえず、ＳＡＯやってみたかったんで買ってもらいました。いやホント苦戦した・・・　受験許すまじ。・・・　俺の過去話はどうでもいいからはよ被れ？あっはいすいません。じゃあ待ちに待ったＳＡＯ、やっていくぜぇ!!

「リンクッ・・・　スタアｔ「お兄うっさい！黙れ！ぶっ飛ばすよ！」あっはい、すいません。リンクスタートー・・・」

燐ちゃん酷い・・・　お兄ちゃんが何したって言うんだ・・・　あっ待って２年閉じ込められるってことは燐ちゃんにしばらく会えなくなるってことｋあっ待ってダイブするの待ってほんとに待ってあああああああぁぁぁああ

ーアインクラッド第1層　はじまりの街ー

「あっ…　着いちゃった…　ここがアインクラッド…　まるで現実だな…　あぁ…　燐ちゃん…　お兄ちゃん頑張って生きて帰るからね…　2年待っててね…」

これは俺的にポイント高い…　けど燐ちゃんと会えないのはポイント低い…　気、気を引き締めてっと…　気分転換に早速シリカちゃんを…

「おーい!そこの黒髪の地味メンなお前〜!」

おいおい呼ばれてるぞ黒髪地味メンｗｗｗ典型的な陰キャじゃねぇかよ〜誰だよそんなのｗ

ポンッ…　ん?ポンッ?なんで俺肩叩かれたんｄ「無視すんなよ釣れねぇなぁ…　おめぇだよおめぇ、名前、なんて言うんだ?」

えっ…　俺かよ…　ってそこ!笑うんじゃねえええええええ!

「えっ、あっ俺か。えーと、俺の名前はれｎ…　れぐる…　です、はい。えーと…　よろしくな…　?」

…　そういえば俺、コミュ障でした☆

「れぐるってのか!なんか女みてぇな名前だなぁ。俺の名前はクライン!よろしくな!」

「あ、あぁ、よろしくな」

「よし、じゃあレベリングに行こうぜ！あと一人誰か誘ってっと…　おっ、あそこのやつ、動きが違う…　手練か！おーい！そこのお前～！」
　こいつこんなに陽キャだったのか…　俺とは次元が違うじゃねぇか…　はぁ…　シリカちゃん…　シリカちゃんはいねぇかぁ…
「おーいれぐるぅ！あと一人連れてきたぜ！」
「君がれぐるか…　俺はキリトっていうんだ。よろしくな！」
「お、おう…　よ、よろしくお願いします…」
　な、生キリトじゃねぇか…　全然イキってないんですけど…　○神とかいうやつ、間違ってるじゃないですかヤダー…
「じゃあ二人とも、軽く戦い方の練習をしておこうか」
「そうだな！よしやるぞれぐる！」
「えっ？あっ、おう、が…　頑張るぞー」
　なんか気が締まらねぇ…　こんなんで生きて帰れるか俺ェ…
　ー１０分後ー
「よし、２人とも、基礎は完璧だな！これからは１人でも狩りができるんじゃないか？」
「うおおお、キリトォ…　！おめぇマジで良い奴だなぁ…　！ホントにありがとな！」
「いやマジでありがとう。感謝してもしきれないわ」

「別にお礼はいいよ。俺は知ってることを教えただけだからさ…　っとクライン、ピザの配達がもう来るんじゃないのか？」
「あっと…　そうだった。じゃあ二人とも、また後で会おうな！」
　あれ…　これ確かログアウトできなくなるやつ…
「!?ログアウトボタンがねぇ…　！」
「なっ…　!?そんなことが…　ほんとにない…　ＧＭに連絡…」
「えぇ…　まじかよマスオ最低だな」
「れぐる、今はふざけてる場合じゃ…　！」
『ＳＡＯプレイヤー諸君ｅｔｃ.』
　みんなこれ聞き飽きたよね？とりあえずカットで…　あっ待ってこれ俺わかる、俺わかるよ？ちょうどいいところだからって終わるやつだ。ほらフェードアウトしてッテル…　アッオイマティ…　！マ　ハナシ　ダ　ア゛ア゛ア゛ア゛ア゛

うるさすぎる門出

前回までの牛スジ…　じゃなくてあらすじ
ＳＡＯキター！
←
受験？ナニソレオイシイノ？
←
シリカたん探してたらキリトとクラインいた
←
もう見慣れたし聞きなれたアナウンスきた
←
フェードアウトした
以上！
そして現在
れぐる「んで２人とも。これからどうするんだ？」
クライン「おいおいコミュｓ…　れぐるさんよォ、なんだそのメンタル。あんな意味

わかんねぇアナウンス聞いて平気ってまじかよ！」
キリト「本当にな…　何か手馴れてる感じじゃないか。同じようなこと経験したことあるのか？」
れぐる「いやいやいやいや、そんなわけないじゃないですかヤダー。学校以外家に出ずに二ー活してた俺だぞ？こんな経験が２度目であってたまるか（実際は読んだことがあるというか見たことがあるというか…　なんて言えるわけねぇよな）」
キリト「二ー活って…　ま、まぁ経験がないことはわかった。疑ってごめんな。それじゃあ２人とも、これからどうするんだ？」
クライン「俺はダチと落ち合う約束してんだ。だから２人とはここでお別れだな！」
れぐる「俺は…　えーと…　どっかの格安宿でそこら辺のモンスター狩りながら一生二ー活？」
キリト「ＯＫ。じゃあクライン、また会えたら会おう！それまで死ぬんじゃないぞ？」
クライン「あたぼーよ！おめェも死ぬんじゃねぇぞキリト！あっあとれぐるも！」
キリト「ふっ…　それじゃあ行くか！れぐｒ「おいおいおいおいちょっと待てよ、何で俺も行く事になってるの？俺引こもるって」なに言ってるんだ。レクチャーしてやっただろ？つまりそういうことだよ」
れぐる「キリト…　お前は…　お前だけは…　死んでも許さねぇぞちく

しょオオオオオオオオオオオオオオオオ！」
キリト「はいはい…　それじゃあ行くぞ、れぐる。まずは適当にレベリングするか！」
れぐる「んあああああああ働きたくねぇよオオオオオオオオオオ！燐ちゃあああああん！燐ちゃんに会わせてよオオオオオオ！」
キリト「あーもううるさいぞれぐる。格安宿紹介してやるから着いてこい！」
れぐる「それまじ？じゃあついてく」
キリト（こいつ…　チョロいな）
おまけ
れぐる「今頃燐ちゃん何やってるのかなぁ…　会いたいたなぁ」
キリト「なぁれぐる、その燐ちゃんって誰なんだ？」
れぐる「ふっ…　何を隠そう燐ちゃんは俺の世界で１番可愛い妹だ！」
キリト「あっそうですか。じゃあその妹に会うためにＳＡＯをさっさとクリアしないとな！」
れぐる「そうだな…　！てかキリトには妹とかいないのか？（まぁいるの知ってるんすけど）」
キリト「一応いるんだけどな…　今の俺にあいつに会う資格は…　あっごめん。今のは忘れてくれ」

れぐる「そ、そうか。なんかごめんな」
キリト「い、いや。平気だよ、うん」
……
れぐキリ「どうすんだよこの空気!!」
今日の！一方その頃燐ちゃんは… のコーナー！
燐「えっ？お兄がＳＡＯに捕われた？ふーん、そっか。まぁいいや。うるさいやついなくなったし。＼ピンポーン／あっ、友達だ。じゃあ遊びに行ってくるね、お母さん」
後にこの事を知ったれぐるは、一晩中部屋から出てこなかったとかいないとか… ？

騒がしすぎるレベリング

前回までのおすし…　じゃなくて牛スジ
アナウンスを無視するコミュ障
←
無視されるコミュ障
←
引きこもろうとするコミュ障
←
発狂するシスコン
←
金に釣られるシスコン
れぐる「なんで俺こんなに侮辱されてンダヨ…　！アッマタフェードアウト…　！
ヤ，ヤメ…　ヤメルォ――！ア〟　ア〟ア〟　ア〟！……」
ほんへ
あの後、無事に格安宿まで行くことができたから、その日はキリトと休むことにした。

ちなみにベッドは同じ。腐女子の皆さんこちらへどうぞ。そして現在、ＳＡＯに捕われて1週間が過ぎていた…

ウィイイイイイイイっすどうもーれぐるでーす

今日はですねぇ… フレンジーボア狩りをやっていこうとパリーン　パリーン　パリーン

… さすがイキリト先輩！やりますねぇ！」

キリト「れぐる… 心の声漏れてるぞ… 変な妄想ばっかしてないでお前もレベリングしろよ」

れぐる「嫌だよそんなの… レベリングめんどくさいじゃんか…」

俺はほかの何よりも作業ゲーが嫌いなのだ。うんうん

キリト「確かにな… でもレベリングしてたら、女の子にモテるかもしれないぞ？」

れぐる「ぐっ… 確かに… ってかそんなこと考えながらレベリングしてたのかよエロリト。やっぱスケベだなぁ… おぉっと口が滑った」

キリト「おいなんだそのふざけたあだ名は！今すぐ撤回しろロリる！このロリコンでありながらシスコンでもある変態め！」

れぐる「うるせぇ！俺は愚弄してもいいがロリを愚弄するな… ！ぶっ飛ばすぞ!?」

キリト「なんだと!?ぶっ飛ばすぞは俺のセリフだこのロリコン！ぶっ飛ばすぞ!?」

れぐる「あぁ!?」
キリト「やるってのか!?このロリコンめ…　！ならやろうじゃないか。後悔しても知らないからな？」
あぁこれはデュエルする羽目になるやつ…　あぁもうどうにでもなれ…　！
れぐる「ふっ…　後悔するのはどっちだか…　じゃあせーのでいくぞ…　せーのっ」
キリれぐ「デュエルスタンバイ！」
戦闘中
れぐる「ふっ…　元ベータテスターが聞いて呆れるぜ。ＭＭＯＲＰＧ初心者のゲーマーヒキニートの俺に剣を弾かれるなんて…　悔しいかイキリトォ！」ガキンガキンガキンッッッ
もう既にこいつの剣の使い方はアニメで何回も見た。剣の使い方上手くなりたいよね…　男のロマンだよね…　あっ今はお互い剣でガキンガキンしてます（語彙力）
キリト「誰がイキリトだ！だがれぐる…　速さが足りないな…　！もっとだ…　もっと早く…　！そこだ…　！『レイジスパイク』!!」
なっ…　！ここで突っ込んでくるかよ普通…　！速すぎる…　！だがこれくらい…ここだ！
れぐる「チィッ…　！パリイ！…　ふっ、隙だらけだぞキリトォ！『ホリゾンタル・ス

クエア』!!」

キリト「なっ…　!?なんでもうその技習得して…　！パリィ…　パリィ…　パリィ…　！そして最後…　！なっ…　残像!?」

れぐる「残念だったなキリトォ！ホリゾンタル・スクエアはラスイチが残像なんだよ…　！おらァ！」

キリト「ぐっ…　！一撃入れられちゃったか…　俺の負けだ。強くなったなれぐる…」

れぐる「ふっ…　お前もなキリト…　っておい待て…　あっやりすぎたんじゃねこれ」

なんか俺とキリトの周りの木が全部切り倒されてるんですがそれは

キリト「あっ…　森が…」

宿主「おいおい騒がしい…　なっ…　お前ら…　！どんだけ森を荒らしたら気が済むんだあああああああああああ！」

れぐる「ワ、ワイはなんにも知らないンゴｗｗｗおっと女の子が助けを呼んでる…助けないかｎ「逃げるなよ？れぐる…　死ぬ時は…　一緒にって約束しただろ…　？」嫌だあああああああああああああああああああああああああああああ！」

その後、宿主にすげぇ怒られました。ちなみにレベルが１０ほど上がっていました。

ー現在のレベル　熟練度ー
れぐる　１８　３００（剣を前に興奮し、素振りをしていたため熟練度はキリトより高い）
キリト　２０　１５０
おまけ
少年２人、入浴中
れぐる「いやぁ…　今日も疲れたなキリト…　おかげでレベルがめちゃめちゃ上がったわ…　ありがとな」
キリト「いや、気にするなよ。俺もいい経験になったからな、デュエルなんて。ホント、お前といるのは楽しいな…　俺はずっとここにいてもいい気がするよ。お前はどうなんだ？れぐる」
れぐる「俺か？俺はもちろん燐ちゃんに会うためにもはやくクリアしたいな！「言うと思った…　そこは冗談でも」だけどな…　お前といるのもすっげぇ楽しいんだキリト…　だから…」
キリト「なっ…　なんだよ改まって…」
れぐる「今夜は…　寝かさないぜ☆」
その後夜更かしして男子会（参加者２人）した

中身が薄すぎる攻略会議

前回のカカシ・・・ じゃなくてＡ・ＲＡ・ＳＨＩ
ユアマイソウソウイツモスグソバニアル
おい・・・ デュエルしろよ
←
ホモ営業
←
おわり
本編はいる前の挨拶（？）
最近の悩みはデュエルによる筋肉痛。どうも、れぐるてす。ＳＡＯが始まって１ヶ月が経ちました・・・ そういえば最近、無茶苦茶なデュエル（ついでにレベリング）をキリトとやるのが日課になってしまい、気づけばレベルが２０をとうに越していました・・・
ちなみに第１層の適正レベルは１１らしいです・・・
こりゃあ最前線は俺ら２人が走っていると言っても過言ではないンゴｗｗｗ」
キリト「お前・・・ また声に出てるぞ？」

れぐる「ええ…（困惑）この癖治る気がしないんですがそれは」
キリト「気合いで直せ」
れぐる「あぁもう無茶苦茶だよ…　あっ、本編どうぞ～」
キリト「おい、さすがに唐突すぎるぞ！なんなんダオマエハ…　ッテオレモフェードアウトカヨ…　！コノネタアキタ…　ア゛ア゛ア゛ア゛ア゛!!!」
ほんへ
例の格安宿の一室
れぐる「なぁキリト、今日から本格的に第1層攻略ってまじ？」
キリト「らしいな…　攻略会議も開かれるみたいだな。話だけでも聞いていくか？」
れぐる「そうするかぁ…　確か転移門前の広場でやるんだっけか？んじゃ早速準備していくか」
キリト「そうだな」
転移門前の広場
キリト「ここか…　じゃあ適当な場所に座るか」
れぐる「そうだな…　じゃあ俺は誰もいなさそうなので1番端っこ「何言ってるか聞こえないだろ難聴コミュ障ロリコンニート」やかましいわ！このスケベ！エロリト！」
エロリト「なんだと…？またボコられたいようだなロリる…」

ロリる「あぁ…？分かってんのか…？今のところ俺らは４９勝４９敗１引き分け…これで全てが決まる…この言葉の重みが」

エロリト「ふっ…今がその決着の時…ってわけだ。わかってるさ、その言葉の重みなんて」

ロリる「油断してるとその出鼻…へし折ってやるｚ「さっきからなんやあんたら、ガキはそこら辺走り回っとけ、攻略会議にはいらんわ」…あ？」

エロリト「あんた…何様だ？攻略会議はまだ始まらないはずだろ？なら余っている時間で茶番させてくれてもいいじゃないか…「茶番って言っちゃったよこのスケベ！」お前は黙っとけ！」

???「ワイはキバオウっちゅうもんや。「名乗れって言ってないだろ関西弁」なんやと!?ガキのくせに調子に…！」

エロリト「お前、今のレベルはいくつだ？」

キバオウ「レベルやと…？今は１０や…それがどうだっていうんや！」

エロリト「そうか…なぁ、第１層の適正レベルがいくつか知ってるか？」

キバオウ「そんなん知っとるわ、レベル１１やろ？１足りないくらいどうってこと…「そんなに余裕越えてるとお前、死ぬぞ？」…なんやガキ、さっきから偉そうに…！じゃあお前のレベルはなんなんや!?」

エロリト「俺か？俺はレベル２２だ。ちなみにここの変態は２０だ」
ロリる「変態とはなんだ変態とは！このスケベ！…　まぁそういうことだよおじさん。ここはこの俺様に任せてくれよ！余裕のよっちゃんイカだからな！」
エロリト「お前が１番慢心してるんじゃないか…？」
キバオウ「な…　な…」
ロリる「ふはははは！慢心せずして何が王か！貴様らは俺の足元にも及ばないのだよ、雑種！」
エロリト「お前ってやつは…」
キバオウ「なんなんやあんたらは！なんでそんなにレベルが上がるんや！チートでも使ったんか!?通報したｒ「まぁまぁ落ち着いて、キバオウさん」…　ディアベルはん…」
ディアベル「はいじゃあそこの２人も！あんまり怒らないでくれ、キバオウさんは悪気があって言ったわけじゃないと思うんだ。じゃあさっさと攻略会議を始めていこうか！」
キリト「…　仕方ない、大人しく話を聞くか、れぐる。…　れぐる？」
れぐる「えっえっえっこんなに人いたのにあんな目立った行動を…　バカか俺死ぬのか
あああああ…」

キリト「相変わらずだな…　まぁとりあえず聞いとこう、な？れぐる」
れぐる「そ、そうだな…　じゃテキトーにチーム決めまでカットで」
キリト「カット…　？お前、髪でもキルノｋ…」
ディアベル「キモチテキニナイト…」
チーム決め
れぐる「んで、案の定あぶれると」
キリト「予想してたのかよ…　ん？あの二人組も溢れてるな…　ちょっと声かけてみるか」
れぐる「えぇ…　ホントにできるのか？スケベ。まぁ頼んだ」
キリト「お前マジで１回切り刻ませてくれ」
～キリトナンパ中～
キリト「と、いうわけで、同じパーティーになってもらうことになった。これからよろしくな」
???????「…　えぇ、よろしく」
「はい！よろしくお願いします！」
れぐる（ん…　？確か原作では１人だけ溢れてたはずだが…　まぁそのひとりは間違いなくあのフードを深くかぶってるアスナなんだが…　あと１人の子は…　子は…

まさか…　！）

キリト「おいれぐる、自己紹介。自己紹介はよ」

れぐる「あ、あぁ…　え、えーと俺のなななななままままえはれぐるるる。ああああああえええええええとあああああああああ」プシュー

れぐる（やべぇ、これ下手したら生…　うあ…）

キリト「…　は？いやちょっと「大丈夫ですか!?」ほんとそれ。まぁほっといてやれ。あっそうだ君の名前は？」

れぐる（そう…　君の名前は…　？」

???「あっ！えーと、私の名前はシリカです！よろしくお願いします！」

れぐる「ああああぁぁああああああああああぁぁああああああああああぁぁぁ！」

ドッカーン！

シリカ「ええ!?れぐるさん!?」

キリト「爆発オチなんてサイテー（棒）」

フードさん「私もう帰っていいかな」